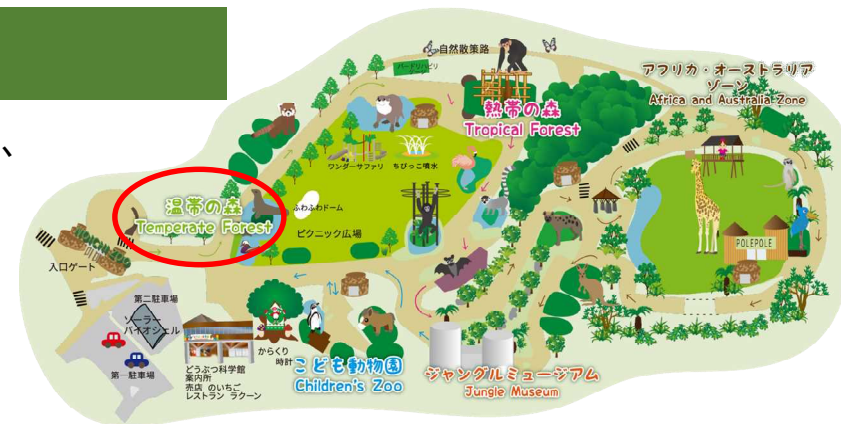


## 温帯の森 (平成3年展示開始)

カリフォルニアアシカ、アメリカビーバー、レッサーパンダ、カワウソ、水鳥など、展示開始以来動物に大きな変更はない。

- 3種のカワウソ (ユーラシアカワウソ、コツメカワウソ、ツメナシカワウソ) を一同に展示。
- アメリカビーバーが、今年の6月、28年ぶりに出産。



カリフォルニアアシカ



アメリカビーバー



レッサーパンダ



ユーラシアカワウソ



コツメカワウソ



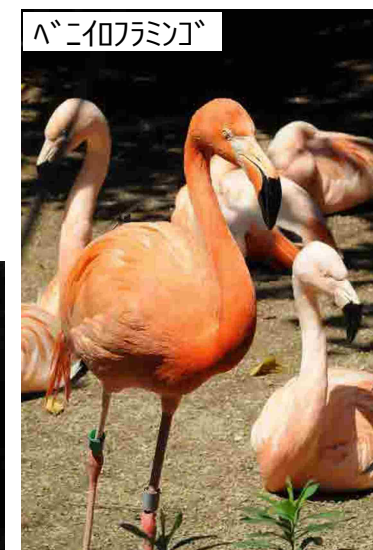
ツメナシカワウソ



## 熱帯の森 (平成3年展示開始)

チンパンジー、ワオキツネザル、シロテナガザル、コウモリ、フラミンゴなど、  
展示開始以来動物に大きな変更はない。

- エジプトルセットオコウモリの飼育数は、**国内最多**。
- チンパンジーが、今年の1月、9年ぶりに出産。





## アフリカ・オーストラリアゾーン (平成9年展示開始)

サバンナ大展示場では、当初、アミメリンとグランドシマウマの他に、セーブルアンテロープとアフリカハゲコウも展示していたが、高齢化等により死亡したため、現在はアミメリンとグランドシマウマのみを展示。

- ハシビロコウとブチハイナは、平成22年から展示開始。
- セネガルショウノガンは**国内で唯一**飼育、展示。



アミメリン



ブチハイナ



ハシビロコウ



セネガルショウノガン



グランドシマウマ



オカンガルー



セーブルアンテロープ



アフリカハゲコウ



## ジャングルミュージアム（平成7年展示開始・中南米ゾーン）

展示開始時には、フタビナマケモノ、コモンモセツ、ワタウシタマリ、オロト、オアリクイなどを展示していたが、高齢化等により他の種に変わり、現在は、ミナミアリクイ、アカハグマ、ヤブイ、オオハシ等を展示。

- ヤブイは、開園30周年を記念して昨年から展示。
- 現在展示しているフタビナマケモノのメス「キュウ」は、これまでに**6回**出産。



## ジャングルミュージアム (平成7年展示開始・東南アジアゾーン)

展示開始時からマレーグマ、ビントロング、ウンピョウ、レッサースローリスなどを展示していたが、高齢化等により新しい個体や他の種に変わりつつある。

- 展示開始時からいるマレーグマのペアは、大変仲良しでこれまでに **6頭** の子どもを出産。  
(メスは昨年10月に亡くなり、現在は、オスのみとなっている。)



- 今までにジャングルミュージアムにいた主な動物





## こども動物園 (平成3年展示開始)

モルモットとウサのコーナーは、当園で唯一動物と直接ふれあい命の大切さを学習する場所。

- プレーリードッグの展示場では、地下トンネルをくぐると動物の目の高さで仕草を観察できる。
- ジェンツーペンギンの展示場では、ガラス越しに泳ぐ姿が観察できる。



プレーリードッグ



モルモット



野間馬



ニホンリス



ジェンツーペンギン



マカロンペンギン



アナホリクワウ



## ピクニック広場（平成3年供用開始）

自然を感じながらお弁当などを広げて休憩できる芝生の広場。子供たちに人気の遊具もあります。

- ふわふわドームとワンダーサファリは、開園20周年を記念して平成21年度に交付金を活用して整備。
- ちびっこ噴水は、開園30周年を記念して昨年度に整備。



## 明らかとなってきた課題

- **動物福祉の観点**から、飼育動物の展示や獣舎整備のあり方を見直す必要がある。
- 飼育動物の高齢化が進み、これからの30年に向けて**繁殖計画を見直す**必要がある。
- 動物の保護に関する世界的な情勢の変化により、希少な飼育動物の**再導入が困難化**している。

次の**30年**に向け

「**のいち動物公園コレクションプラン**」を策定